

## はじめに

本報告者は、平成13年度～平成16年度の科学研究費補助金、基盤研究（A）（2）研究課題名「情報通信技術（IT）革命の文化的・社会的・心理的効果に関する調査研究」課題番号 13301007、研究代表者 直井優により実施された研究の成果報告者である。

この研究の主たる目的は、現在グローバルに展開されているIT革命が、人々の様々な側面にどのような影響を及ぼしているのか、を同時代的に明らかにすることにある。1990年代からはじまったIT革命は、ITバブルを引き起こし、「IT革命は、さほどの社会変化を引き起こさない。」とさえいわれていた。しかし、現在では、長期的には、IT革命の趨勢は、明確に増大する社会変化を引き起こしていることが、知られている。確かに短期的には、増大したり、縮小したり波動をしているのではあるが、長期的にはコンスタントに増加傾向が認められるのである。

私たちは、この趨勢を明らかにするために、平成12年（2001年）から、2002年、2004年と3回にわたって、IT革命が人々の文化的側面、社会的側面、そして心理的側面にどのような影響を及ぼすか、全国調査を継続して行ってきた。文化的側面としては、ポスト産業社会では、「脱物質主義的価値」が優位するといわれている。しかし、日本では、この価値変動は、必ずしも明確には確認されていない。

IT革命が及ぼす社会的側面については、とくに日本では高齢化との関連が重要である。IT革命の担い手は、若者であることは確かであるが、高齢化している日本で、高齢者の問題を除いて社会変動については、語るができない。それとともに、労働の世界での「職業の複雑性」という問題も重要である。IT革命によって、人々の仕事の複雑性は、高まっている。こうした労働世界の変化が、労働者にどのような影響を及ぼすか、を分析する必要がある。

心理的側面では、ひろく「自己指令性」について、検討している。自己指令性とは、何を、いつ、どのようにするのか、自分で決定できる能力を、指示する概念である。現代社会は、きわめて複雑な社会である。IT革命は、この社会の複雑性を明かに高めている。それにたいして、人々も知的により柔軟に、またより複雑にならなければならない。このように、環境の複雑性と自己指令性は、交互に作用をしあって、ポジティブに強化しあっていくものといえよう。

最後に、我々は、IT革命が、長期的に人々の幸福感を増大するのかを問うている。このために新しくWELL-BEINGの尺度を追加して、パネル調査を実施している。

この研究成果報告書を作成するために、多くの方々のお世話になりました。お名前は省かせていただきますが、厚く御礼申し上げます。

平成17年3月

研究代表者 直井 優